

鎌倉・藤沢の人口密集地にバイオ公害の武田薬品巨大研究所

青柳節子（藤沢エコネット）

・概要

鎌倉、藤沢は東京から 50 キロ圏内の人口の密集した通勤住宅地域であるとともに、古都鎌倉、湘南江ノ島を抱える有数な観光地でもある。両市の境界に巨大なバイオ研究所をつくるという大企業、武田薬品(株)は、周辺住民の不安を無視し、様々な明朗とはいえない手法で強引に建設を押し進めている。

「インベスト神奈川」という企業誘致政策で、80 億円もの助成金をつけて、平成 18 年に武田薬品を誘致したのは、松沢神奈川県知事である。同じ松下政経塾出身の海老根新藤沢市長は平成 20 年 3 月の市長就任に際し、武田薬品の立地支援を表明した。海老根市長の「一生住みつけたい湘南ふじさわ」の標語が泣いている。

武田薬品(株)は湘南工場を平成 18 年 3 月廃止、同年 10 月、跡地にバイオ研究所建設計画を発表した。平成 19 年 4 月から平成 20 年 12 月まで、神奈川県環境影響予測評価のアセス手続きが行われ、平成 20 年 12 月 3 日より武田薬品は旧工場を解体、平成 21 年 7 月 3 日、研究所起工式が、県知事、藤沢市長、鎌倉市長出席のもとおこなわれ、建設が始まった。

敷地約 250,000m²、建物約 78,500m²、延床面積 315,000 m²、実験棟高さ 43m15 棟、給水約 4,500m³/日、排水約 2,200m³/日、都市ガス約 41,000m³/日、バイオ排気約 800 万 m³/時、研究者 1200 人他 300 人規模の日本最大級のバイオ研究所であり、鳥インフルエンザ等の感染性病原体も扱える P3 施設 3 棟、放射性同位元素を扱う RI 施設 3 棟を持つ。

・問題点

(1) 立地

鎌倉市と藤沢市の境界、JR 線路際に位置し、周囲 3 キロ圏内は、40 万都市藤沢、17 万都市鎌倉、350 万都市横浜の市民の住宅・商業施設、JR 藤沢駅・大船駅、小田急、江ノ電、モノレール駅などが密集し、大病院が隣に位置し、学校など環境に配慮すべき施設が 200 以上も存在する便利で文化

的かつ良好な住宅地が並ぶ人口密集地である。さらに鎌倉は世界遺産に登録を目指す古都でもある。

このように良好な湘南の地に、漏れると危険なウイルスや遺伝子組み換えを扱う P3 施設 3 棟、放射性同位元素を扱う RI 施設 3 棟、動物実験棟 7 棟を含む 15 棟が建設されるというのは、非常識なものではないだろうか。それも敷地いっぱい建設し、セーフティーゾーンなどないのである。

WHO(世界保健機構)では、病院等配慮すべき施設からなるべく離して建設すべきであると勧告している。しかし武田薬品は WHO の文は、同じ建物内で、実験室は病室などから離すべきと言っているのだと誤訳して主張している。

また、敷地の前を川が流れ、地盤が低く、地震時には液状化危険度大の地域である。震度 7 に耐えられる構造にするとやっているが、いつ来てもおかしくないと言われる関東大震災級の大地震の場合、倒壊しなくても、亀裂が入るだけで危険なのが微生物やウイルスを扱う研究棟である。また、動物実験棟 7 棟からも小動物が亀裂から逃走する恐れがある。

北側は斜面で高くなり、そこには住宅地が並んでいる。南西の風が多いこの地では、もろにバイオ排気や焼却排気を吸うことになる。

立地場所としては、あらゆる面で周囲への悪影響を及ぼしやすい最悪の地と言える。

(2) 排水問題

4 大公害のうち、イタイイタイ病(カドミウム)水俣病(メチル水銀)など大半は汚染物質が排水を通じて河川、海を汚染し発生した。すなわち排水は特に環境配慮しなければならない項目である。

ところが、武田薬品新研究所の場合、排水問題で少なくとも 4 点の重大な問題がある。

環境アセスの不備

神奈川県環境影響予測評価で、「水質汚濁」は、排水を公共下水道に放流するという理由で、環境影響予測評価項目に選定しなかった。県環境影響予測評価審査会の良識が問われるところである。結果として公共下水道を管理する藤沢市が排水の全責任を負うことになった。こんな無茶な話はな

い。万一の場合、藤沢市が一義的には責めを負い、多額の税金を投入することになる。

協定書違反・県バイオ指針違反

藤沢市の下水処理場（大清水浄化センター）はその建設時に反対運動が起こり、市は住民との間に公害防止のため工場排水は受け入れないという基本協定書を昭和 53 年に交わしている。さらに個々の工場、研究所など 50 社と藤沢市は、工場排水のうち、生活系排水のみを公共下水道に放流するという協定書を結んでいる。武田薬品も湘南工場時代の昭和 53 年に協定書を市と結んだ。その 3 条には、工場を第 3 者に譲渡した場合でも譲り受け人に協定の内容を承継するとある。よって、武田はこの協定書を結んでいるので、工程排水を公共下水道に放流できない。当然研究実験棟などからの 1 日 2200m³ にもものぼる排水は公共下水道には放流できないはずである。にもかかわらず、湘南工場が廃止された時、協定書は廃止となったとか、研究所からの排水は工場排水ではないとか様々な理に合わない理由をつけて、公共下水道に放流するとしている。

藤沢市も武田薬品と同じことを言い、武田薬品が前処理をして、大清水浄化センターが受け入れ可能の水となるため、受け入れるなどと協定書を無視している。

さらに現在、バイオに関する法令は整っていないが、神奈川県バイオテクノロジー環境安全管理指針があり、生物材料について排出防止徹底のために、排ガス、排水、廃棄物等二次生成物質も含めて、適正に処理し、廃棄物の自己処理責任の徹底が規定してある。つまり、排水など廃棄物はみな、自己処理をしなければならぬ。この県バイオ指針に違反して、武田薬品は自己処理せず、藤沢市に排水処理を委ねている。

滅菌処理は不完全

武田薬品の研究所内には排水の完全な処理施設はなく、P3 施設からの排水のみは滅菌処理することになっている。P1、P2 などからの排水を含む廃棄物はオートクレーブ（高温高圧滅菌器具）による滅菌をするのみである。動物実験などからの大量の排水がオートクレーブをすべて径由するとは考えられない。

大量なバイオ排水

一日 2200m³ という大量の水が、排水され、それが、滅菌不完全な遺伝子組み換え、放射性物質、動物実験排水を含む排水である。この排水が生活系排水のみを処理する大清水浄化センターで完全に処理できるとは思われない。浄化センターは活性汚泥を用いた微生物による浄化方法を取っている。ここで武田薬品から漏洩した微生物が逆に浄化センターの微生物を駆逐しないと保証できるのだろうか。

（ 3 ）排気問題

病原性をもつ感染性の強い、HIV や鳥インフルエンザ等 P3 施設からの排気は HEPA フィルターを通して排気するとしている。HEPA フィルターは 99.97% ウイルス等を補足するが、100% ではない。また、P2、P1 その他の施設からは普通のフィルターを用いて排気される。その量が毎時 800 万 m³ 以上、1 日東京ドーム 150 杯分以上の空調系排気が排出される。0.03% 漏れたとして、東京ドーム 4.5 杯分が漏れている可能性があるということになる。

実際、国内外で事故も多数起こっていて、HEPA フィルター交換の際取り付け不良で、炭素菌（P3 ウイルス）が漏れて風下 4km の 60 名以上が死亡したという、旧ソ連時代の事故もある。

排気は周辺に放出せず、循環再利用せよというのが市民の要求である。

WHO では P3 施設からの排気は HEPA フィルターを通したあと、再循環しても良いと認めているが、武田薬品は労働安全衛生規則に、外部との換気が必要であると記載されているので、一部のみ循環させると言い、ほとんど循環せず、周辺に放出する。

（ 4 ）大量の動物実験と動物焼却

15 棟の実験棟のうち、7 棟は動物実験棟である。延床面積は 10 万 m² 以上である。1m² にマウス 5 匹としても、50 万匹飼育することになる。動物の種類は、マウス、ラット、イヌ、サル等という。動物たちをたとえば、ガンに罹患させた上で、ガン治療薬を投与し、その治療効果を観察するなど、臨床実験等をするのである。

実験が終われば、焼却廃棄する。その焼却炉は、1 日 1.8 トンも火葬する。マウスで約 4 万匹、カニ

クイザルで約 120 匹分である。

実験飼育中の排水、排気、また、焼却炉からの廃棄物や臭いが問題である。臭いは臭気指数 10 を目安と言っても「何の臭いか分かる」段階と「容易に感ずる」の中間だそうだ。動物の臭いと分かれば、周辺では拒否反応も起こるだろう。人の火葬場の場合、神奈川県条例で、人家より 300m 離れることとある。この基準を守ってもらいたい。

また、焼却方法だが、WHO では、2 度焼きせよと言っていて、1 度目は 800 度以上、2 度目は 1000 度以上の再燃焼方式を強く勧告している。この方式により、汚染物質が除去されるという。武田薬品では、これを守らず、WHO の勧告は、プラスチックなどが混ざっている場合の燃焼方法で、動物だけには適用しないとねじ曲げて解釈をしている。

(5) 建築違反問題

敷地 25 万㎡に武田薬品が発表している延床面積 315,000 ㎡なら問題ないが、これは 5 階建とした場合の延べ床面積である。高さ 43m の実験棟が 5 階建てとは、間に空調設備用の階があり、建築を請け負った竹中工務店では 10 階建と言っている。話に聞くと、エレベーターは 10 階分あり、空調の階は、床がほとんどなく、機械だけなので床面積に計上されていない。これが 10 階分の床面積とすると、容積率が基準を超えてしまう。つまり建築違反になることになる。

開発許可を得るには様々な規制をクリア しなければならぬ。それと関連するのが、奇々怪々な建築確認申請をしている。この 315,000 ㎡の巨大研究所を建設するに当たって、新築ではなく、増築なのである。その方法は、市境にあるので、藤沢側の旧湘南工場は解体したが、鎌倉側の倉庫のような小さい建物は残した。その小さな建物の増築また増築でエネルギー棟や研究棟を建築申請している。何故なのだろう。また最近の民営化で建築確認も民間会社が行っているのだから、詳細を市民は見ることができない。

(6) 天災、人災

立地のところで触れたが、地震に非常に弱い、液化化危険度大の区域である。TOFT 工法という阪神淡路大震災の時、功を奏したという工法を用いるとのことであるが、どれだけ持ちこたえるか。

倒壊しなくとも亀裂が入れば微生物やウイルスが漏れ、小動物が逃走する危険な施設がバイオ研究所である。

人災はいつ起こるか分からない。社員 1500 名と言っても毎日 900 台も車が出入りするということであり、その他に委託や派遣や清掃員など数多くの人たちが出入りする。人災による漏えいなどの事故が全くないとは言い切れない。

武田薬品は何の災害予防措置も発表していない。

藤沢市長は起工式で「地元が元気になる」と言ったそうだが、表面の活気は恐ろしい危険と隣り合わせなのだ。



完成予想図

武田薬品（株）研究所完成予想図

・市民の運動

「武田問題対策連絡会」は平成 20 年 7 月の武田薬品主催の説明会后、それまで不安を感じ学習をするなどしていた、環境団体と個人が中心となり、武田薬品の高圧的な態度に反発して発足した。約 100 名で安全を求める活発な活動を繰り返している。環境団体は鎌倉、藤沢、横浜に数団体が前後して生まれ、連携して活動している。

まず、アセス手続き中、公聴会で表明された不安事項をまとめ、127 項目の公開質問状を神奈川県、環境審査会、藤沢市、鎌倉市、横浜市に提出、安全対策で、より一層バイオに配慮すべきという県、3 市の意見を引き出した。

鎌倉市議会に研究内容説明の徹底を陳情、採択され、藤沢市議会には、汚染物質をいっさい出さないことなどを求めて、署名 8,369 筆とともに請願したが、否決された。

また武田薬品と 3 回にわたって住民対話集会を開催し、毎回 120 ~ 150 名の参加で周辺住民とともに安全を求めて活動している。

県環境影響予測評価の評価項目に「水質汚濁」が選定されなかったことから、環境省に追加環境影響評価の指導を求めた。環境省は、国ではなく、

県の条例なので、指導はできないと回答。総務省に初めてのバイオ公害として、公害調停申請を申し入れ、受けつけられた。しかし、地方の管轄だということで、神奈川県公害審査会に調停は移管され、2009年7月27日に第1回の公害調停が行われる。

公害調停の日程が目前に控えているにかかわらず、武田薬品は7月3日に起工式を県知事、藤沢市長、鎌倉市長等を招いて行ったため、当日門前で50人以上の周辺住民が抗議行動を行い、読売など6社とTVKなどマスコミが報道した。

藤沢市が武田薬品と結んだ排水受け入れを承諾した協議書第4条の取り消しと、今年度予算に計上した武田薬品研究所と下水道本管を結ぶ工事費の執行停止を求めて、2009年6月18日に藤沢市長に対し住民監査請求をおこなった。7月14日、申し立てと答弁があり、60日以内に結果がもたらされる。市の答弁は、都市計画法で如何に藤沢市が下水道を完備してきたかを長々と説明し、研究所は生産工程を持たないので工場排水ではなく、重金属などは分別回収、遺伝子組み換えはカルタヘナ法などで規制され、下水道法や条例に基づく受け入れ可能な水となるので受け入れるという、従来の答弁の繰り返しであった。

県開発審査会にも建設確認申請など違法の疑いで不服申し立てをしている。

焼却、建築違反、天災・人災など、どれをとっても環境影響上非常に問題があり、法律や協定に違反しているか、法律すれすれで無理やり建設しようとしており、その大企業としての社会的責任や良心的態度は見受けられない。さらに周辺住民との工事覚書の取り交わし方法は、住民とは秘密裏に、自治会連合会長の家に押しかけ、条文をよく理解しないうちに印をもらうなど、狡い方法で行っている。

武田イズムとは「誠実」ということだそうだ。武田イズムは嘘八百と言われる前に、誠実に周辺住民の不安を取り除く諸対策をとった研究所建設を行うよう、切に願うものである。

(ホームページ <http://www.shounan.biz/>)



武田薬品起工式に門前で抗議する周辺住民



不安な親子

・最後に

以上の事から、立地、排水、排気、動物実験と